第６０回入学式　校長式辞

春麗らかな今日の佳き日に、本校同窓会会長様、ＰＴＡ会長様並びにＰＴＡ役員の皆様、そして多くの保護者の皆様に御臨席を賜り、第６０回入学式を挙行できますことに、衷心よりお礼申し上げます。

ただいま入学を許可されました２０５名の新入生の皆さん、入学おめでとうございます。名実ともにこの宮崎県立都城農業高等学校の生徒となった皆さんの、晴れ晴れとした表情を見ると、気が引き締まる思いがします。

九年間の義務教育を終えて本校へ入学してきた皆さんは、人生という道を自分自身の力で切り拓き、自分自身の足で歩んでいく力を身に付けるために、精一杯努力してくれるであろうと信じて、入学を許可いたしました。

また、今日まで、お子様の成長を見守り励まされ、この日を心待ちにして来られた保護者の皆様方にも、心よりお祝い申し上げます。

さて、本校は地域農業の発展に貢献する人材育成を目的に、大正５年に北諸県郡立農学校として設立され、令和６年３月末で創立から１０８年を数える、歴史と伝統のある学校です。

農業が「国家の基をつくる産業」であることは、本校への入学を志願してきた皆さんは、よく理解していることと思います。

本校には「地域の農業とその関連産業の発展に現場で貢献する人」、「農業のよき理解者となって農業を応援する人」を育ててほしいという宮崎県民からの熱い期待が掛かっていることを忘れないでください。

ところで、高校生活のスタートにあたり、新入生の皆さんに、高校３年間の目標と目標達成のための行動計画を立てることをお願いします。その際、「自分には無理」と思わずに、できるだけ高い目標を設定してください。

「能力の差は小さく、努力の差は大きい。継続の差はもっと大きい。」という言葉があります。これは、「なりたい自分」になるために決意した実践を、自分にとって当たり前になるまで習慣化することが、自己実現への第一歩になるということを表しています。

授業、学校行事、資格取得、部活動、ボランティア活動等、高校生として、日々やらなければならないことを、当たり前のように地道にコツコツと実践することで、「なりたい自分」に近づいていくことができます。

自分自身が立てた目標を達成するためにも、日々取り組むことを具体的に自分でしっかりと考えてください。

そして、本校には「自他敬愛」、「知徳耕道」、「見聞知行」という校訓があります。

「自他敬愛」は、「自分や他人を大切にし思いやる心を育てる」という意味ですが、「他人のことを自分のことのように、あるいは、他人のことを自分のこと以上に大切にする心を育てなさい」ということを教えています。

「知徳耕道」は「農の力を持って知識、人格を耕す、磨く」という意味ですが、「農業を学ぶ中で身に付けた知識と徳で心を耕やしなさい」ということを教えています。農業を学ぶということは「農業に関する知識や技術が身に付く」だけではなく、「徳」、つまり、「良い行いや正義にしたがう人格的な能力」も同時に磨くことができ、人間としての価値を上げることにつなげられるということです。

「見聞知行」は、「見て、聞いて、知って、実行する」ということですが、「自他敬愛」、「知徳耕道」の良い事例を見たり、聞いたり、知ったりするだけでは、学びとしての意味がないということを教えています。
身に付けた知識や徳を、学校生活や日常生活という場で実践することに学ぶ意味があります。

校訓に込められた「農業を学ぶ意味」や「農業を学ぶ者の心構え」を理解するとともに、限られた３年間ですが、同じ志をもった同級生とともに、できるだけ多くのことを経験してほしいと思います。

皆さんの中学校生活は、新型コロナウイルス感染拡大により、行動制限がかけられた日々が大半を占めたことと思います。中学生の時、コロナ禍の中で中学校生活を送った皆さんは様々な学びの機会、成長の機会を失ったことは否定できません。その分を高校生活で取り戻してほしいと思います。

結びに、新入生の皆さん、一人一人の高校生活が有意義なものとなるよう祈念し、また、保護者の皆様におかれましては、本校の教育方針をご理解の上、学校運営への御支援を賜りますことをお願いして式辞といたします。

令和６年４月１０日
宮崎県立都城農業高等学校
校長　山下　勉